

令和8年度 教育研究の概要

1 研究主題

気づき、考え、表現する児童生徒の育成（3カ年計画の第3年次）
～主体的・対話的な活動を取り入れた工夫ある授業づくり～

2 研究主題設定の流れ

本校は小規模校及び準へき地校である。そのため、少人数での関わりが多く、人間関係が固定化し、必要最低限の言葉で自分の思いが伝わる環境にある。自分の考えを伝え合ったり、「相手に分かりやすく伝える」ことを考えながら話したりする意識が弱い。したがって、授業においても、児童生徒が自分の考えを主体的に発信することは本校の課題である。よって研究主題を「気づき、考え、表現する児童生徒の育成」とし、3カ年計画で段階的に研究を行っていくことにした。そこで、第1年次は「伝え合う場面を設けた授業づくり」、第2年次は「伝え合う授業づくりの工夫」を副主題とし、小中一貫校の良さを生かし、教科の垣根を超えた研究を全職員協同して進めた。

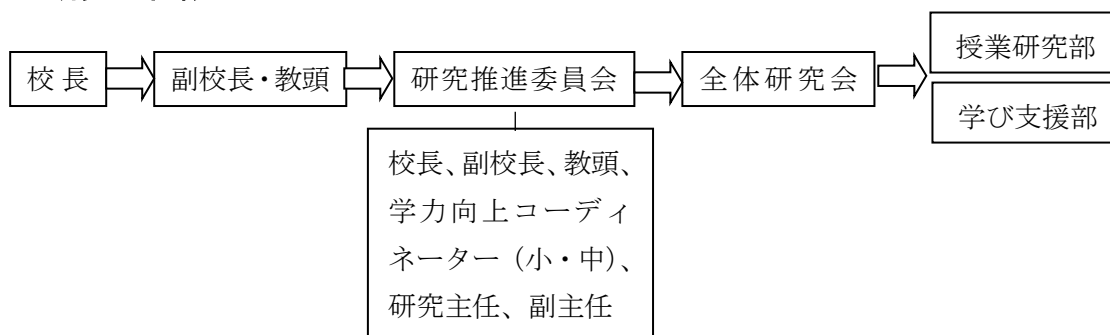
昨年度（3カ年計画の第2年次）の研究の取り組みとして、「自分の考えをもつための支援」や「伝え合うための工夫」を意識した授業づくりに全職員で取り組んだ。その結果、「自分の考えをもつ（書く）ことが好き」という児童生徒は増加し、一定の研究成果は得られたと考えられる。

しかし、「自分の考えを主体的に伝えること」に関しては、児童生徒の意識の高まりや活用力の向上があまり見られず、課題が残った。そのため、今後「児童生徒が自信をもって伝え合うための手立て」「対話の中で考えを深めるための授業づくりの工夫」の具体について試行・検討していくことが必要である。その際、本校が長年研究を重ねてきた「北山校学習の進め方」や「表現ツール」も活用しながら授業改善を進めていくことで、「他者の考えを聞いて自分の考えを深め、伝えることができる児童生徒の育成」が期待できるだろう。そのうえで、授業で培った力を地域との交流や各行事などで活用し、自分の思いを伝えたり、相手の意図を組んで感想を述べたりする児童生徒の育成にもつなげたい。以上の理由から、上記の研究主題設定を行う。

3 研究の目標

気づき、考え、表現する児童生徒の育成を目指すために、主体的・対話的な活動を取り入れた工夫ある授業づくりの在り方を探る。

4 研究の組織



5 研究内容与方法：「気づき、考え、表現する児童生徒」の育成

(1) 研究構想図をもとに目指す児童生徒の姿と研究の進め方（3カ年計画）の共通理解

(2) 「主体的・対話的な活動を通して表現できる授業づくり」の実践（授業研究部）

① 代表授業および講師招聘による授業研究会の実施（小学部、中学部からそれぞれ1本）

② 授業見学週間の実施（年2回）

③ 授業実践シートの作成、交流（2学期末）

→学力向上と関連付けた、客観的な見取りを含む。

④ 「北山校学習の進め方」「表現ツール」活用の改善（5～6ページ参照）

【実践時、特に重視する内容】「北山校学習の進め方」の「考える」「深める」場面の工夫

- ・自分の考えや意見を発表することが苦手な生徒が、自信をもって伝えることができるようになるためには、どのような手立てが必要か。
- ・児童生徒が、対話の中で自分の考えを深めるためには、どのような手立てが必要か。
- ・「表現ツール」活用の改善・推進 → 「1.5往復（1往復半）の意見交流」を行う

(3) 「気づき、考え、表現する児童生徒」の育成のための、学びの支援の充実（学び支援部）

① 学力向上との連携、「家勉強がんばろう週間」の計画および実施

② ノルティール手帳の利活用

(4) アンケートの実施（学び支援部）

① 現状把握（5月）…児童・生徒対象アンケート、職員対象アンケートを実施し、結果報告

② 変容把握（11月）…児童・生徒対象アンケート、職員対象アンケートを実施し、結果報告

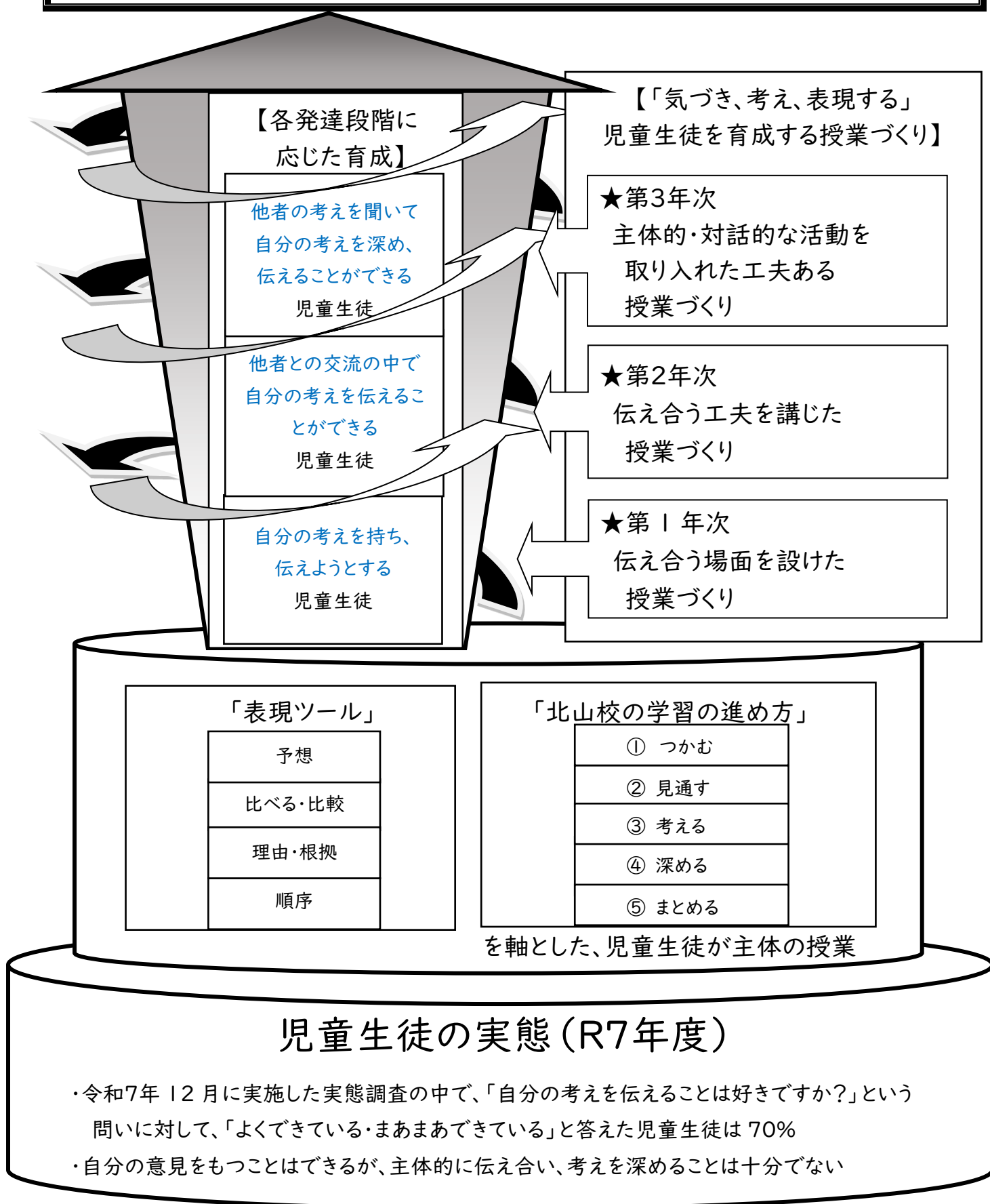
③ 実践の成果と課題を共通理解

6 年間計画

	1 学期	2 学期	3 学期
共通取組	○「北山校学習の進め方」・「表現ツール」活用の共通理解 ○研究構想図の共通理解 ○アンケートの実施 5 月	○アンケートの実施 11 月	○次年度へ向けての話し合い
	○代表授業者の指導案検討 ○代表授業の実施 ・小学部： ・中学部： ○代表授業後の振り返り（授業者）		
授業実践部	○「主体的・対話的な活動を通して表現できる授業づくり」実践シートの枠組作成・依頼 ○授業見学週間の計画及び実施 6～7 月（2 週間） ○表現ツールの改善 ○表現ツールを各教室に貼る	○授業見学週間の計画及び実施 11 月（2 週間） ○代表授業者の指導案検討 ○「伝え合う授業づくりの工夫」実践シートのまとめ・交流	○代表授業者の指導案検討 ○代表授業後の全体研修のまとめ ○「伝え合う授業づくりの工夫」実践シートのまとめ
学び支援部	【全体】 ○アンケートの作成 【小学部】 ○「家勉強がんばろう週間」の計画・準備 【中学部】 ○ノルティ手帳の活用方法等	【全体】 ○アンケートの作成・分析 【小学部】 ○「家勉強がんばろう週間」の実施 9 月 【中学部】 ○ノルティ手帳の活用方法等	【小学部】 ○「家勉強がんばろう週間」の実施 2 月 【中学部】 ○ 成果のまとめ

7 研究構想図

気づき、考え、表現する児童生徒の育成



8 R7 年度の研究の実際

(1) 研究の内容と方法

① 「北山校学習の進め方」

「北山校学習の進め方」(旧「北山校学習モデル」)は、平成26年度以前から(※)本校が研究を進めている「授業づくりの流れ」である。令和7年度は、これに「教師の手だて」を付したものを作成し、全職員で共有した。

北山校学習の進め方(教職員用)

流れ	学習活動	教師の手立て
つかむ	(1) めあてをつかむ ・今日の学びを意識する	・前時を振り返らせる ・前時との学習のつながりや違いに気づかせる ・問題や課題の意味を理解させる ・児童生徒にめあてを考えさせる
見通す	(2) 見通しをもつ ・答え(結果)の見通し ・解決方法の見通し ・場作り・時間などの見通し	・答えや結果を予想させ、考える意欲を持たせる ・児童生徒の発達の最近接領域(※※)を意識した見通しをもたせる
考える	(3) 考えをもち話す <u>北山思考スキルの活用</u> A) 事柄を比較し、類似点・相違点を見出す B) 根拠のある考えや予想を立てる C) 条件を踏まえた考え方を考える D) 順序立てて説明する E) 表現ツールを活用する	・話し合いのねらいを示す ・北山思考スキルを活用させる ・伝え合いの方法を指示する 【例】 一人で考える →2人で・グループで伝え合う   ・伝えるための場や時間の設定をする
深める	(4) 全体で考えを伝え合い深める ・意見の比較・相違点から、事柄の決まりを見つける。 ・有効的な方法を選ぶ ・自分に合った方法を見つける・選ぶ ・納得できる答えを見つける	・北山思考スキルを活用した話し合いを意識させる ・認識を深める発問の工夫をする ・発達の最近接領域(※※)を踏まえた発問(その発問をすれば一歩考えを深めることができるなど)や場の設定を考える ・考えを伝えやすい板書づくりを意識する ・答えの提示の仕方を工夫する 
まとめる	(5) まとめと振り返りをする ・きまりや学習用語を使って ・キーワードを使って ・文型を意識して ・数字での評価や自分の言葉で振り返ることとて、次時の学習への意欲につなげる 	・めあてとまとめの整合性を図る ・児童・生徒の能力に合ったまとめの方法を考える 【例】みんなで考えて書く 穴埋め方式 自分の言葉でまとめる など ・次時の学習への構えをもたせる

※ 平成24年度に前身となる「北山メソッド」が作成され、その後平成26年度に「北山校授業モデル」として改訂された。
 ※※発達の最近接領域・・・「現在自分でやることは難しいが、他人との共同の中であれば(誰かのサポートがあれば)で

きることの領域」。ロシアの教育学者、ヴィゴツキーが提唱した。

② 「表現ツール」

「北山校思考スキル」と共に児童生徒が自分の考えや意見を伝える際により活用しやすいよう、「表現ツール」と称して各項目の文例を再度整理した。

【前期】 ^{ひょうげん} 表現ツール	
(1) ^{よそう} 予想	・もし～だったら、●●なと思います。 ・～だから、これから●●なと思います。
(2) ^{くら} 比べる	・^{おな}同じところは～です。 ・ちがうところは～です。 ・～の方が●●に^{くら}比べて▲▲です。 ・どちらも～です。 
(3) ^{りゆう} 理由	・～だから●●です。 ・わけは～からです。 ・～なので●●です。
(4) ^{じゅんじょ} 順序	・^{はじ}始めに～です。^{つぎ}次に●●です。 - それから▲▲です。^{さいご}最後に◆◆です。 ・^わ分かったことは○つあります。1つ目は～です。2つ目は●●です。

【中期・後期】表現ツール	
(1) 予想	・もし～だったら、●●だと思います。 ・～だから、●●なと思います。
(2) 比較	・類似点は～です。 ・相違点は～です。 ・～の方が●●に比べて▲▲です。 ・双方の共通点は～です。 ・2つを比べると～ということが分かります。 
(3) 根拠	・～なので●●です。 ・～ということから●●が分かります。 ・～と考えました。その理由は●●からです。
(4) 順序	・最初に～です。・・・最後は●●です。 ・始めに～であり、次は●●です。終わりは▲▲です。 ・私の考えは○つあります。1つ目は～です。2つ目は●●です。

③ 代表授業および講師招聘による授業研究会の実施（小学部、中学部）

④ 授業見学週間の実施

⑤ 授業実践シートの作成、交流

※詳細については「令和7年度 研究のまとめ」冊子を参照してください。